

調査・研究報告書の要約

書名	平成18年度 プロジェクト&プログラムマネジメント標準ガイドブック (P2M) 改訂調査研究報告書				
発行機関名	社団法人 日本機械工業連合会・特定非営利活動法人 日本プロジェクトマネジメント協会				
発行年月	平成19年3月	頁数	432頁	判型	A4

〔目次〕

- 第1部 プロジェクトマネジメントエントリー

- 第2部 プロジェクトマネジメント

- 第3部 プログラムマネジメント

- 第4部 個別マネジメント
 - 第1章 プロジェクト戦略マネジメント
 - 第2章 プロジェクトファイナンスマネジメント
 - 第3章 プロジェクトシステムズマネジメント
 - 第4章 プロジェクト組織マネジメント
 - 第5章 プロジェクト目標マネジメント
 - 第6章 プロジェクト資源マネジメント
 - 第7章 リスクマネジメント
 - 第8章 情報マネジメント
 - 第9章 関係性マネジメント
 - 第10章 バリューマネジメント
 - 第11章 コミュニケーションマネジメント

〔要約〕

本報告書は、「プロジェクト&プログラムマネジメント標準ガイドブック（P2M）改訂調査研究」の成果を取りまとめたものである。

新しい発想のもとで生まれた日本発の「プロジェクト&プログラムマネジメント標準ガイドブック（P2M）」の初版が発行されてから5年が経過した。この間、P2Mの有効性は広く世界に認められるところとなり、先進主要各国のPMスタンダードにも取り入れられつつある。わが国では、特定非営利活動法人 日本プロジェクトマネジメント協会(PMAJ)がP2Mに基づく資格制度を設け全国的に普及してきている。毎年500～600名の新規会員も増え、累計で約2500名の資格保有者が誕生し、その動向が世界からも注目されている。

これらの資格者が実業界でその実践力を発揮することで、P2Mの有効性の認知が更に深まり、普及するというポジティブ・スパイラルを起し、産業界・経済界の国際競争力強化策に重要な位置づけとなってきている。P2M標準ガイドブックの改訂調査研究は、これを大きく後押しするものとして実施された。

今回のP2Mの改定にあたっては、PMAJ内に「P2M改訂委員会」を設置し、広く改訂意見を抽出・取り纏めを行ってきた。その「基本方針」は次の通りである。

- ①P2Mの基本コンセプトを失わず、時代の流れ・変化を取り込むものにする。
- ②ガイドブックの体系として、全体整合を強化する。
- ③難解または曖昧な部分を修正し、理解のし易さと読みやすさに重点を置く。
- ④事例や図表等で時間経過と共にデータとして古くなった部分を更新する。
- ⑤統一的、一貫性を持った言葉で表現する。



この事業は、競輪の補助金を受けて実施したものです。

<http://keirin.jp/>

